

SGEPSS 分科会 古地磁気・岩石磁気研究会 活動報告

◆ 2002年夏の学校

2002年8月3日～8月5日に、神戸市北区にある関西セミナーハウスにて開催した。学生43名、招待者2名を含む総勢65名が参加した。講演数は20件であった。今年は、多数の海洋磁気研究者の参加と、日本に長期滞在中の外国人研究者4名の参加によって、例年になく交流をもつことができた。2日目の午後には、“人類紀の地球環境”をテーマに下記の招待講演会を開いた。

加藤茂弘氏（兵庫県立人と自然の博物館）

「東アフリカの約2Ma以降の古地磁気層序：古人類進化と地球環境変動を結ぶ基準時間面」

成瀬敏郎氏（兵庫教育大）

「アジアの風成塵とモンスーン変動」

両氏とも自然地理学をベースにした研究者であるが、古地磁気・岩石磁気グループとの連携も可能なテーマでの講演がなされた。

1日目夜の分科会では、夏の学校のありかたについて議論されたが、結論は出ず、今後も検討を続けることが確認された。2003年はJAMSTECの担当で開かれることが決まった。

2002年夏の学校 幹事 兵頭政幸（神戸大学）

